

JAL愛媛原告を支える会



ニュース



発行：JAL不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 TEL 089-945-4526

無意識の思い込みに気をつけて



私は、戦争は絶対反対ですし、1日も早く戦争が終わることを望んでいます。ですが、まるでお祭りがかなにかのように、あちらでもこちらでも大騒ぎしている人たちを見てみると、何かもやもやしたものをずっと感じていました。

(裏面に続く)

JAL不当解雇撤回争議団 西予市在住 大池ひとみ

ウクライナ進攻のもやもや感

いつも変わらぬ温かいご支援を本当にありがとうございます。12年目に入った私たちの闘いは、なかなか収束しないコロナに加え、ロシアのウクライナ侵攻というとんでもない時世の中ですが、争議の解決をめざし、明るく粘り強く空の安全とすべての労働者の働く権利を守るうろくをスローガンに粛々と前進しています。

ロシアがウクライナに侵攻したというニュースはまたたくまに地球を駆け巡り、世界のあちこちで戦争反対、プーチンやめろ、世界に平和をと、プラカードや横断幕や旗を振ってデモやスタンディングが行われ、テレビでは毎日その様子が映し出されています。

繋がり大きな力へ

「野村の未来を守る会」 副代表
河野修三



JAL愛媛原告団の皆さん、争議活動12年という日々はあまりにも長すぎます。苦しいですね。理解解雇が強引に推し進められたのは、労働者が働きやすい職場づくりや安全な運航体制について正しく意見する組合を無くすことが真の狙いだったのでしよう。

ながら、簡単に首を切られたわけです。夢と誇りを持つてこの仕事に就かれた皆さんの辛さは、想像に余りあります。訴訟では、政治的圧力による強引な資材購入や放漫経営がJAL業績悪化の原因となったことを綿密に立証されているのに、裁判所はそれを認めようとはしません。私は今、伊方原発運転差し止め訴訟原告団の一員として活動していますが、体制に従属した司法界の不甲斐無さに歯がしりすることが多いです。皆さんも、さぞ悔しいことでしょう。

しかし、JAL愛媛原告団の大池ひとみさんは、様々な地域活動に精力的に取り組み、人々と深く繋がり、地域に欠かせない人になっていきます。私も、大池さんから、様々なことを教わっています。他の原告の方々も、この間、同じような出会いや繋がりができたろうと思います。この繋がりは、周りの人たちの気づきを促し、大きな力となり、何かを変えていくのではないのでしょうか。

いえ、絶対に変えていきましよう！ 待つのではなく、みんなの力で。

私は、小学校教員であった当時、愛媛県では組織率1%未満の組合員でした。子どもたちのためにどんなに頑張っても「勤務評定」は最下位で、私の給与は上がりませんでした。組合つぶしのために作られた「研修団体」(第2組合)に加入しない限り、昇進もあり得ませんでした。組合弱体化のためには手段を選ばないやり方を、私も体験してきました。

でも私は、地方公務員法によって解雇はされず、大好きな教壇で定年まで過ごすことができました。JAL愛媛原告団の皆さんの場合は、国が破綻処理にかかわり

戦争は絶対反対です。この世から戦争がなくなればどんなにいいかと思つています。でも、戦争はなかなかなくならない。私たちが空を飛んでいたころ、外地で新聞を広げると、必ずと言っていいほど泣いている人の写真が載っていました。子供を亡くした親だったり、夫を亡くした妻だったり、兄を亡くした弟だったり。戦争で命を落とし、残された家族が悲しみにくれていている記事でした。世界中で戦争がなかった時代はありません。

日本とアメリカとミャンマー

日本は第二次世界大戦後、日本国憲法に守られ、これまで一人も殺されていないし、一人も殺していません。ですが、ほかの国では毎日戦争で人の命が奪われているのです。



アメリカは建国からもうすぐ250年経とうとしています。そのうち230年は戦争をしてきています。つまり国が誕生して以来、90%以上の年月を戦争に費やしてきているのです。私が知っているだけでもベトナム戦争、イラク戦争、アフガン戦争、湾岸戦争・・・

以前、ミャンマーでクーデターが起き、国民が軍に抵抗して様々なデモをやつて抵抗の意思を示していることを書きました。その後、ミャンマーではついに戦争に発展してしまつたことをどれだけの方がご存知でしょうか？

軍と国民軍が衝突し、家が焼かれ、指導者と思われる人達は連行され、ミャンマーは今でも停電が続いています。つい最近、時間制となり、夜5時から朝の9時まで電気が使えるようになったのですが、日中は40度を超える暑い国です。昼間にエアコンが使えないのは命にかかりますよね。

「大丈夫ですか？」と問うと、「ウクライナのあたりに比べたら、まだましかな」という答えが返ってきました。相変わらず悠長なのでほつとしましたけど、大変なはずです。かく言う私も知人から情報が入つてこなければ、ミャンマーで戦争が起こっているなんて全く知らなかつたと思います。調べてみると現在、世界では24の国や集団が戦争をしているそうです。

アンコンシヤスブアイアス

私が言いたいのは、なぜ今なのか、ということなんです。

どうしてベトナム戦争や湾岸戦争のとき、今と同じように皆で声を上げてデモに参加したり、大使館に手紙を書いたり、募金運動をしなかつたのか、その理由は何なのでしょう。

メディアがこぞつて、ロシアがウクライナに侵攻して子供たちを殺した、病院を爆破した、家が壊されて住むところがなくなつた、という情報を毎日流して煽っているように見えてならないのです。

私は戦争には絶対反対です。

ロシアもウクライナも今すぐ武器を捨てて戦争をやめてほしい。なのに、「やられる前に軍備を整えよう」とか、「改憲が必要」とか「緊急事態条項を設けるべき」とか、知らぬ間に誘導されているような気がしてなりません。

テレビや新聞の報道を鵜呑みにしてはいけないことはわかっているはずなのに、なぜかそれに釣られて思い込んでしまう「アンコンシヤスブアイアス」。「無意識の思い込み」に気を付けなければいけません。

私たちの解雇も根っこは同じです。なぜ解雇されなければならなかつたのか。その本質を見謝ると、解決が遠のいてしまいます。

JHU（JAL被解雇者労働組合）は結成されて1年。まだ22名の小さな集団ですが、一人一人が自分の頭で考え、何をすべきかを知つて、それを行動に起こせる人たちがばかり。

現在、JAL客乗争議団としての活動は休止していますが、JHUとしてなら自由に活動していることになっていきますので、思いっきり頑張ってみるつもりです。引き続きご支援をよろしくお願ひいたします。



2022. 5. 1 第93回愛媛中央メーデー